

新潟県立国際情報高校

新潟県南魚沼市／男女共学／1学年約160人
国内進学実績(2018年度入試):
東北大学、名古屋大学、東京外国語大学、国際教養大学など

[写真左から]

キャロライン・ウィルヘルム(ALT)
石野比羽子(教諭)
丸山智恵子(教諭)
神田貴代子(教諭)
サスリカ・クレ(講師)
キーン・ロス
トリボリ(ALT)

海外大学進学コースは、海外経験を持つ教員3人と講師を中心に、チームで指導にあたる。



年度	国	大学名	人数
2018年度入試	アメリカ	University of Oregon	1人
	アメリカ	Andrews University	1人
	オーストラリア	Queensland University of Technology	1人
	チェコ	Masaryk University	1人
2017年度入試	アメリカ	University of California, Santa Barbara	1人
	アメリカ	University of Maryland, Baltimore County	1人
	カナダ	University of Calgary	1人
2016年度入試	アメリカ	University of Nevada, Reno	1人
	アメリカ	The State University of New York	1人
	アメリカ	DePauw University	1人
	アメリカ	Webster University	1人
	カナダ	University of Calgary	1人

Q 指導のしかたは？
A コースの開始は2年生から。所属希望者は1年生のときに教員と面談し、アメリカ・ボストンの複数の大学を見学するキャンパスツアーに参加します。所属後は通常の授業とは別に、「グローバルスタディーズ」と呼ばれるディスカッション・プレゼンテーション中心の全て英語による授業と、英語学習、エッセイの添削指導などを受けます。
指導の過程で「なぜ海外の大学を志望するのか」を繰り返し尋ねます。これにより進学の目的意識

Q 取り組みの背景は？
A 本校は国際文化科と情報科学科の2学科で構成されており、1992年の創立以来、国際化・情報化社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。
2013年度には新潟県教育委員会の「魅力ある高校づくりプロジェクト」の一環として、本校に海外大学進学コースが設置されました。グローバルな視点を持ち、将来、世界で活躍する人材の育成を目的としたものです。これまでに卒業生を3回送り出しましたが、毎年、希望者全員が海外大学への進学を果たしています。
Q 取り組みのしかたは？
A 本校では、10年以上前から海外大進学を推進しています。国内の敷居が低くなれば、さまざまな出会いや経験を求めて、若者が海外に出ていくのは当然です。そんな彼らに、海外で学ぶための技術や機会を提供することは、学校の責務だからです。
ここ数年は毎年、学年の1割にあたる30〜40人が海外大に進学しています。2018年度入試では34人でした。進学者が1割程度いるということは、希望者は2、3割はいるということです。元々海外進学クラスを設けていたため、2018年度入試よりこの専門クラスを廃止しました。今は各クラスにいる希望者を学年全体で指導しています。
Q 指導のしかたは？
A 指導をするにあたっては、大学の校風、入試や授業のレベル、

Q 進学者の特徴は？
A コース所属者は自分でレールを敷いていくことになり、そのため、人と違うことを恐れない、自立した生徒が多いと感じます。周りにいい影響を与えようとする点も特徴の一つです。母校や地域への貢献意識が強く、この取材に同席してくれた*卒業生の坂内さんのように、卒業後も頻りに顔を出し、在校生向けの講演やワークショップに協力してくれます。
「ニューヨークでアメリカやヨーロッパの都市計画を学ぼう」という日本との違いを意識するように、かえって故郷である新潟の

Q 日本の大学に一言。
A 海外大学進学コースは、今春3月に4期生が卒業します。5期生となる現在の2年生も全員が志高く授業や課外活動に励んでおり、海外大進学をめざす生徒はこれからも続いていくと思います。
これまで私たち教員は、まさに手探りで生徒を育て、海外の大学に送り出してきました。グローバル人材育成の手法などについてはもっと知見を深め、生徒の指導に生かしたいと思っています。地域から世界に飛び立つ人材を高大で連携して育成するようなことができたらと願っています。

じわり増える海外直接進学

日本の高校生の進学先は、徐々に海外に広がりがつつある。例えば東京都の高校では、ホームページに海外大学の合格実績を掲載している学校が、編集部が調べただけでも40校以上*2あった。その1つを紹介すると、東京都立国際高校(国際学科、1学年約240人)では、2017年度卒業生の海外大合格者数は104人*3であった。なお、学問系統で見ると、国際関係学や国際政治などの国際系、マーケティングや金融などのビジネス系、心理学やスポーツマネジメントなどのヒューマン系の3専攻の人気の高いようだ*4。
海外4年制大学に直接進学する以外にも、海外2年制大学を卒業した後に、海外や日本の4年制大学に編入するケースもある。海外2年制大学への留学で求められる英語力はCEFRのB1レベル。高校生の英語力の平均値が上がれば、海外大進学はさらに身近な選択肢になるだろう。

*1 海外大学進学コース一期生。ニューヨーク州立大学2年 *2 2017年度入試と2018年度入試の2か年での実績
*3 学校のホームページ掲載資料より。国際バカロレアコース(1学年約20人)の1期生が昨年卒業 *4 ベネッセコーポレーション調べ

年度	国	大学名	人数
2018年度入試	アメリカ	Oregon State University	1人
	アメリカ	Central Washington University	1人
	アメリカ	Temple University	2人
	アメリカ	Santa Barbara City College	1人
	カナダ	University of Toronto	1人
	カナダ	Acadia University	1人
	カナダ	Fanshawe College	1人
	カナダ	North Island College	1人
	カナダ	Camosun College	1人
	イギリス	University of Sussex	1人
イギリス	Birkbeck, University of London	1人	
イギリス	University of the Arts London	1人	
イタリア	Roma Tre University	1人	
タイ	バンコク大学	1人	
韓国	延世大学	4人	
韓国	慶熙大学	1人	
中国	上海交通大学	1人	
中国	復旦大学	1人	
台湾	淡江大学	1人	
台湾	銘傳大学	1人	

Q 取り組みの背景は？
A 本校では、10年以上前から海外大進学を推進しています。国内の敷居が低くなれば、さまざまな出会いや経験を求めて、若者が海外に出ていくのは当然です。そんな彼らに、海外で学ぶための技術や機会を提供することは、学校の責務だからです。
ここ数年は毎年、学年の1割にあたる30〜40人が海外大に進学しています。2018年度入試では34人でした。進学者が1割程度いるということは、希望者は2、3割はいるということです。元々海外進学クラスを設けていたため、2018年度入試よりこの専門クラスを廃止しました。今は各クラスにいる希望者を学年全体で指導しています。
Q 指導のしかたは？
A 指導をするにあたっては、大学の校風、入試や授業のレベル、

Q 進学者の特徴は？
A コース所属者は自分でレールを敷いていくことになり、そのため、人と違うことを恐れない、自立した生徒が多いと感じます。周りにいい影響を与えようとする点も特徴の一つです。母校や地域への貢献意識が強く、この取材に同席してくれた*卒業生の坂内さんのように、卒業後も頻りに顔を出し、在校生向けの講演やワークショップに協力してくれます。
「ニューヨークでアメリカやヨーロッパの都市計画を学ぼう」という日本との違いを意識するように、かえって故郷である新潟の

Q 日本の大学に一言。
A 韓国の大学に進学した本校の卒業生で、在学中にタイ、ラオスなど東南アジアに留学して、そこで多数のネットワークを築いた女子学生がいます。今、韓国の外務省や領事館、タイの大使館などが彼女の争奪戦をしています。
中学校での彼女の成績は、学年の真ん中くらい。そんな彼女が日本の大学に進学したとして、今の状況があり得たでしょうか。少子化が進む中、より一層一人ひとりの可能性に注目した人材育成が求められていると思います。

*1 英語、中国語、ロシア語、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語の7コースを設置。
*2 同校が主催する学校間ネットワーク。各国・地域の代表生徒が2週間共に過ごす「世界教室国際フォーラム」や、交換留学等を実施。

関東国際高校

東京都渋谷区／男女共学／1学年約360人
国内進学実績(2018年度入試):
上智大学、立教大学、法政大学、明治学院大学など

副校長
黒澤眞爾

くろさわしんじ●1989年
韓国嶺南大学大学院修士課程修了。アジア学生文化協会アジアセミナー韓国語主任等を経て、2013年より現職。



Q 取り組みの背景は？
A 本校では、10年以上前から海外大進学を推進しています。国内の敷居が低くなれば、さまざまな出会いや経験を求めて、若者が海外に出ていくのは当然です。そんな彼らに、海外で学ぶための技術や機会を提供することは、学校の責務だからです。
ここ数年は毎年、学年の1割にあたる30〜40人が海外大に進学しています。2018年度入試では34人でした。進学者が1割程度いるということは、希望者は2、3割はいるということです。元々海外進学クラスを設けていたため、2018年度入試よりこの専門クラスを廃止しました。今は各クラスにいる希望者を学年全体で指導しています。
Q 指導のしかたは？
A 指導をするにあたっては、大学の校風、入試や授業のレベル、

Q 進学者の特徴は？
A コース所属者は自分でレールを敷いていくことになり、そのため、人と違うことを恐れない、自立した生徒が多いと感じます。周りにいい影響を与えようとする点も特徴の一つです。母校や地域への貢献意識が強く、この取材に同席してくれた*卒業生の坂内さんのように、卒業後も頻りに顔を出し、在校生向けの講演やワークショップに協力してくれます。
「ニューヨークでアメリカやヨーロッパの都市計画を学ぼう」という日本との違いを意識するように、かえって故郷である新潟の

Q 日本の大学に一言。
A 韓国の大学に進学した本校の卒業生で、在学中にタイ、ラオスなど東南アジアに留学して、そこで多数のネットワークを築いた女子学生がいます。今、韓国の外務省や領事館、タイの大使館などが彼女の争奪戦をしています。
中学校での彼女の成績は、学年の真ん中くらい。そんな彼女が日本の大学に進学したとして、今の状況があり得たでしょうか。少子化が進む中、より一層一人ひとりの可能性に注目した人材育成が求められていると思います。

*1 英語、中国語、ロシア語、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語の7コースを設置。
*2 同校が主催する学校間ネットワーク。各国・地域の代表生徒が2週間共に過ごす「世界教室国際フォーラム」や、交換留学等を実施。

進路指導の国際化

↓ 海外進学という選択肢

高校卒業後、海外の大学に直接進学するというルートはもはや珍しくなくなっている。海外進学実績を持つ2校にその狙いと取り組みを聞いた。

Q 進学者の特徴は？
A 「自分の人生を自分でつくっていく」という意識が強いですね。そのため、中途半端な勉強はしたくないとの考えを持っているように思います。
一方で、日本の大学には多様なメニューが用意されていますが、そこでどんな力が身に付くのか、ぼんやりしているように感じます。夢を本気で実現しようとする、海外の大学のほうが実現できそうなイメージを、生徒は持っているように感じます。